

県内企業が暮らしを豊かにする商品や仕組みを提案し、そのデザイン力や発想力を競う「ニイガタIDS（イデス）デザインコンペティション2021」（にいがた産業創造機構主催）。31回目「これ、イデスね!」。思わずうなづいてしまう受賞作を7回にの今年は過去最多の98件の応募の中から、大賞、準大賞、IDS 分けて紹介する。

イデスね!

IDS  
デザイン

2021コンペ受賞作

1

市街地にほど近く、豊かな生態系を育む新潟市の鳥屋野潟。潟のほとりに事務所を構えるデザイン会社「U・STYLE（ユースタイル、新潟市中央区）」は、潟の魅力を伝える冊子の制作のほか、食や環境にまつわるイベントの運営に長年取り組む。水質悪化に悩まされながら、人とのつながりを取り戻しつつある鳥屋野潟を「再生をかけた水辺」として発信している。

松浦社長は「潟と人の間にあった豊かな接点をもう一度つくり出そうと、その後の取り組みが生まれた」と語る。地元の野菜や雑貨などを集めた「潟マルシェ」、潟の魚をはじめ地元食材を使った料理を提供する「とやの潟ウィンターキッチン」といったイベントに展開した。

元野菜や雑貨などを集めた「潟マルシェ」、潟の魚をはじめ地元食材を使った料理を提供する「とやの潟ウィンターキッチン」といったイベントに展開した。

## 人つなぎ水辺再生に一役

運営するウェブサイトでは、鳥屋野潟の歴史や周辺で見られる生き物、潟周辺の飲食店情報などを掲載。動画も

使い、潟の現状や次世代への継承といった今後のビジョンを広く発信している。

これまでの一連の活動を、潟と人が共に暮らす水辺の街をテーマにした鳥屋野潟発信プロジェクトとしてまとめあげ、IDSデザインコンペの大賞に輝いた。

審査員からは「地元では当たり前にあるモノの価値を効果的に美しく表現し、積極的に発信している点が素晴らしい」などと評価された。

松浦社長は受賞を喜び、今後について「外から人を呼び込む段階。持続可能な未来を発信できる場所として世界に発信していきたい」と意欲を語る。

写真＝U・STYLEがデザインしたウェブサイト。鳥屋野潟の歴史や生態系、イベント情報などを掲載している。

市街地にほど近く、豊かな生態系を育む新潟市の鳥屋野潟。潟のほとりに事務所を構えるデザイン会社「U・STYLE（ユースタイル、新潟市中央区）」は、潟の魅力を伝える冊子の制作のほか、食や環境にまつわるイベントの運営に長年取り組む。水質悪化に悩まされながら、人とのつながりを取り戻しつつある鳥屋野潟を「再生をかけた水辺」として発信している。

2006年に同区南笹口に設立した同社は、県内各地の地域ブランドディングに取り組んできた。鳥屋野潟と深く関わるようになったのは12年。潟の周辺で暮らす住民たちに、かつての暮らしぶりを聞き取ってまとめた冊子を毎年作るようになった。

きっかけは、11年3月の東日本大震災。松浦和美社長は「津波の伝承が失われた結果、被害が拡大したところもあった。世代を超えた語り継ぎが大切だと感じた」と振り返る。

鳥屋野潟は周辺の開発に伴い、水質汚染が進んだ。「魚がいっぱいいて、泳いで回った」「きれいで水も飲めた」

大賞

U・STYLE —新潟・中央区—

# 鳥屋野潟の魅力発信

